

## 高校から、大学・社会へのトランジション を目指した高大接続改革

**溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.**

学校法人桐蔭学園 理事長  
トランジションセンター所長 桐蔭横浜大学特任教授

学校法人河合塾教育イノベーション本部研究顧問

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)



ウェブサイト「溝上慎一の教育論」  
<http://smizok.net/education/>

今日の話に出てくる用語や概念の詳細  
を知りたい方はお読みください

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年  
京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至  
る。京都大学博士(教育学)。  
\* 詳しくはスライド最後をご覧ください

(京都大学の授業より)





(京都大学の授業より)

# アクティブラーニング型授業

講義＋アクティブラーニング（書く・話す・発表する等の「外化」）

大  
学



＋



中  
学・高  
校



＋

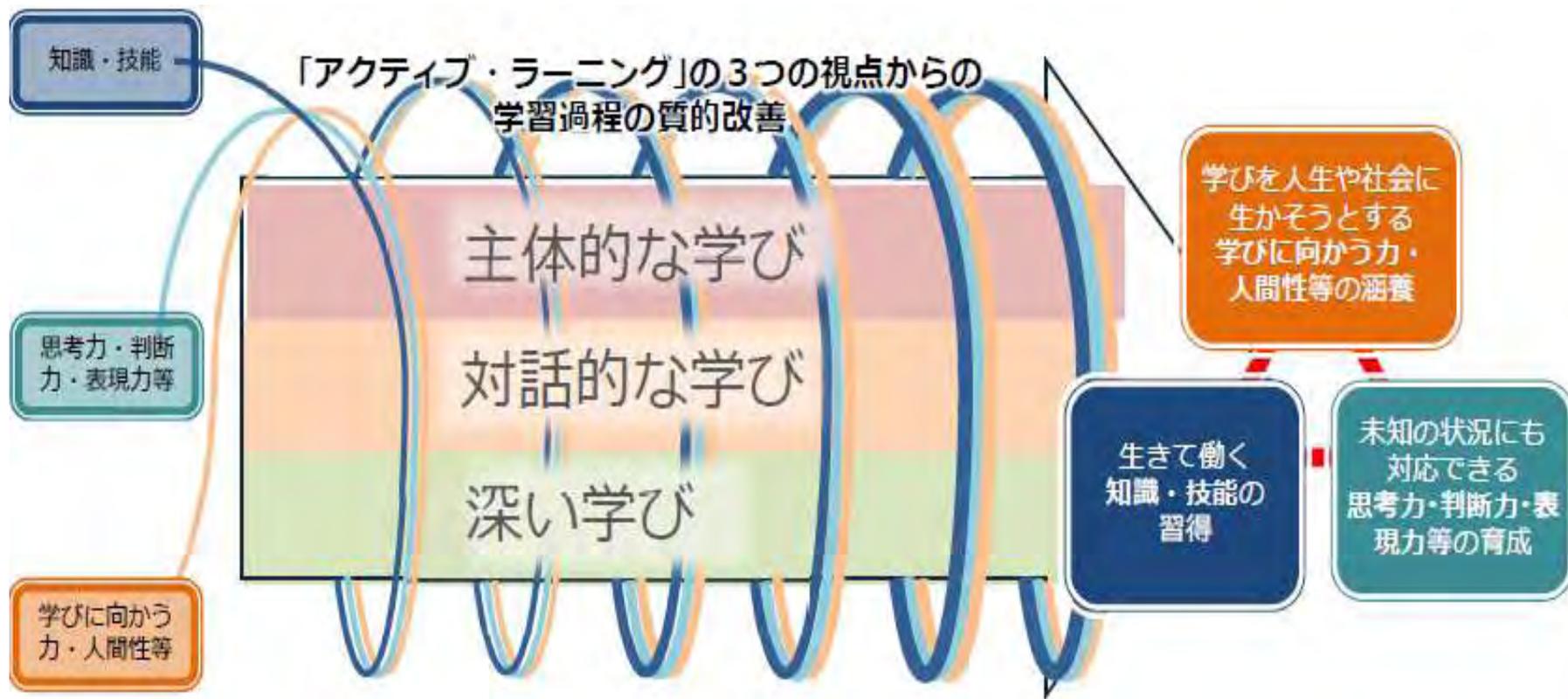


**Further Readings** 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

- ✓（理論）「大学教育におけるアクティブラーニングとは」
- ✓（理論）「初等中等教育における主体的・対話的で深い学びーアクティブ・ラーニングの視点」

# 新学習指導要領

## 主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」の視点)





# 学校教育の社会的機能の見直し

- 雇用構造の変化(正規・非正規雇用、日本的雇用の衰退、一般化する離転職など)
- 情報化・グローバル化、人口減少に伴う多様化
- 学校から仕事・社会へのトランジション(移行)課題
- 人工知能(AI)



学校から仕事・社会へのトランジション(移行)



個と協働のバランス (対話的・協働的なワーク)

ひとり個人の専門的スキル・知識だけではダメだ。  
組織の中での思考・コミュニケーション・問題解決等が必要だ



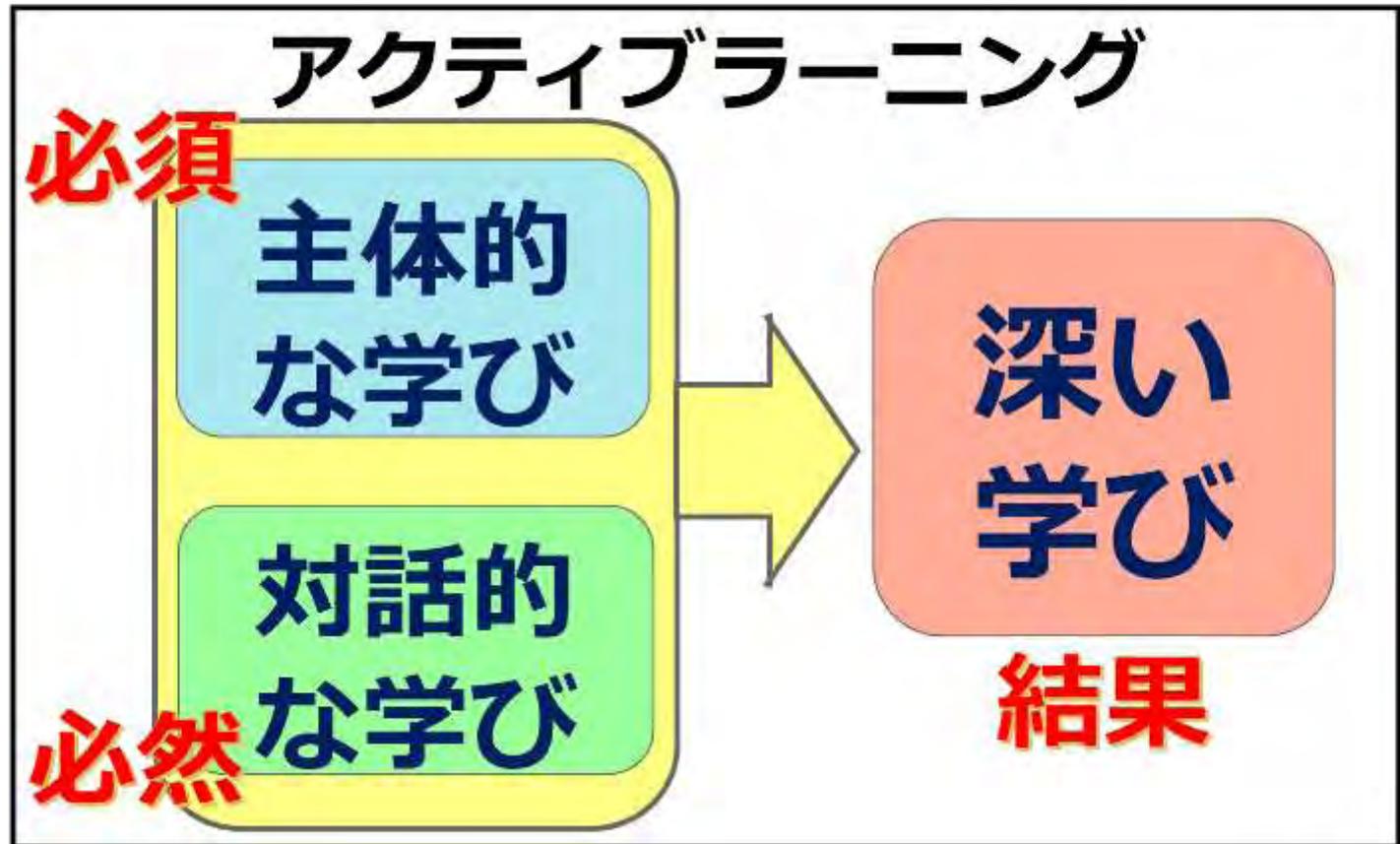
製菓会社



食品会社

アクティブラーニング

一番大切なのはどれだと思いますか？





## 学習プロセス

習得

－

活用

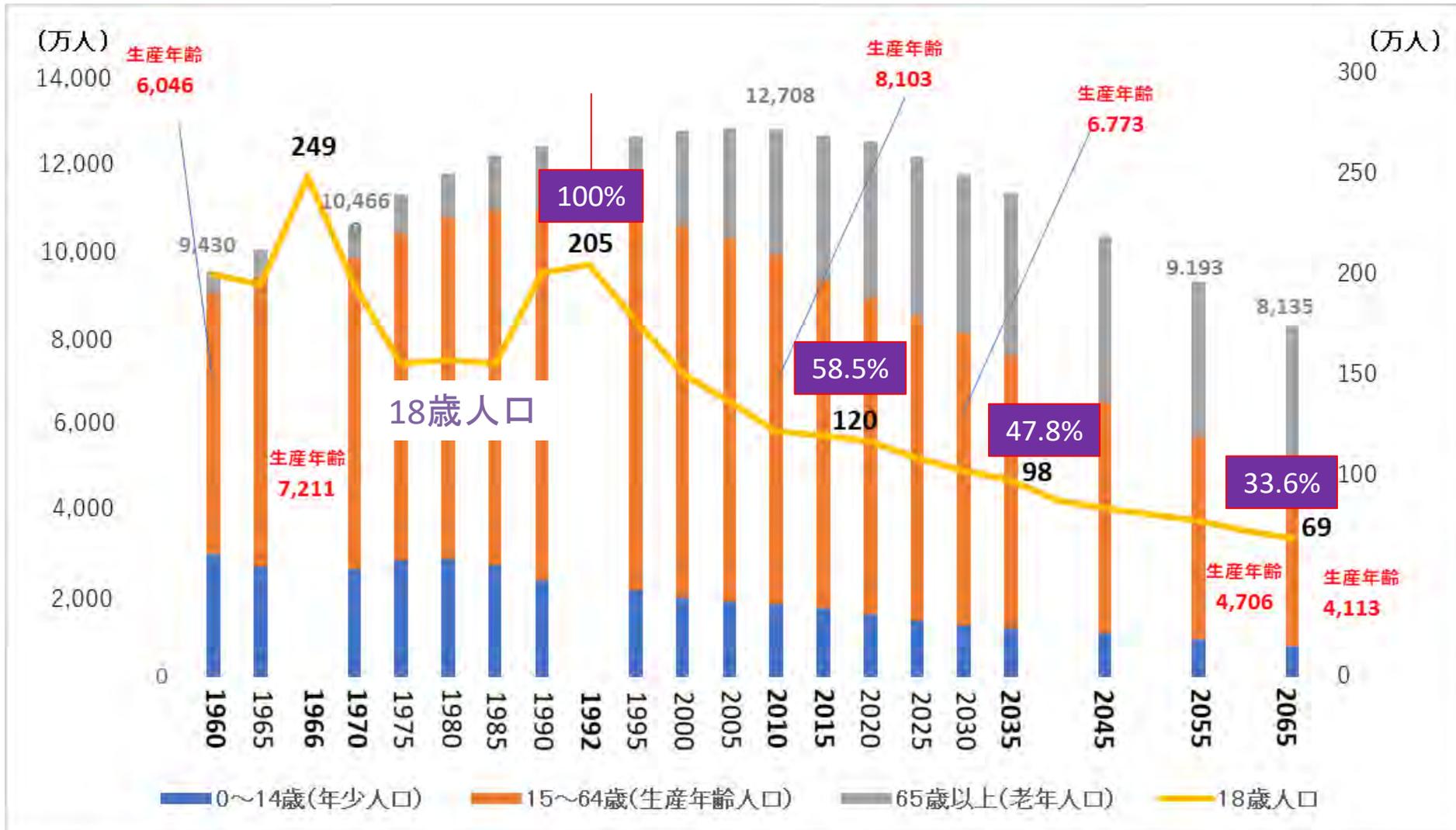
－

探究

ALで求められるのはここ

変わる社会に適応するのに求められるのはここ

# 進む人口減少





溝上慎一監修 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾(編) (2018年2月)

『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題』 学事出版

第1章 10年トランジション調査の前史

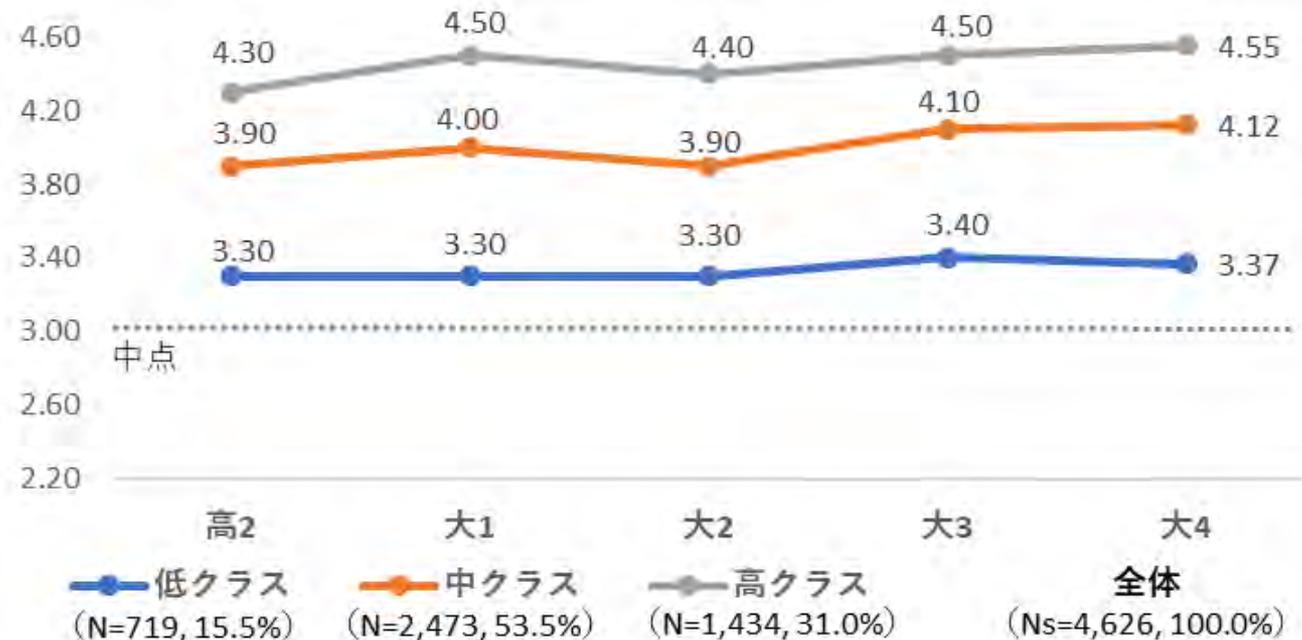
第2章 10年トランジション調査の2時点目(大学1年時)までの成果

第3章 高大接続と受け入れる大学側の観点から結果をどう見るか

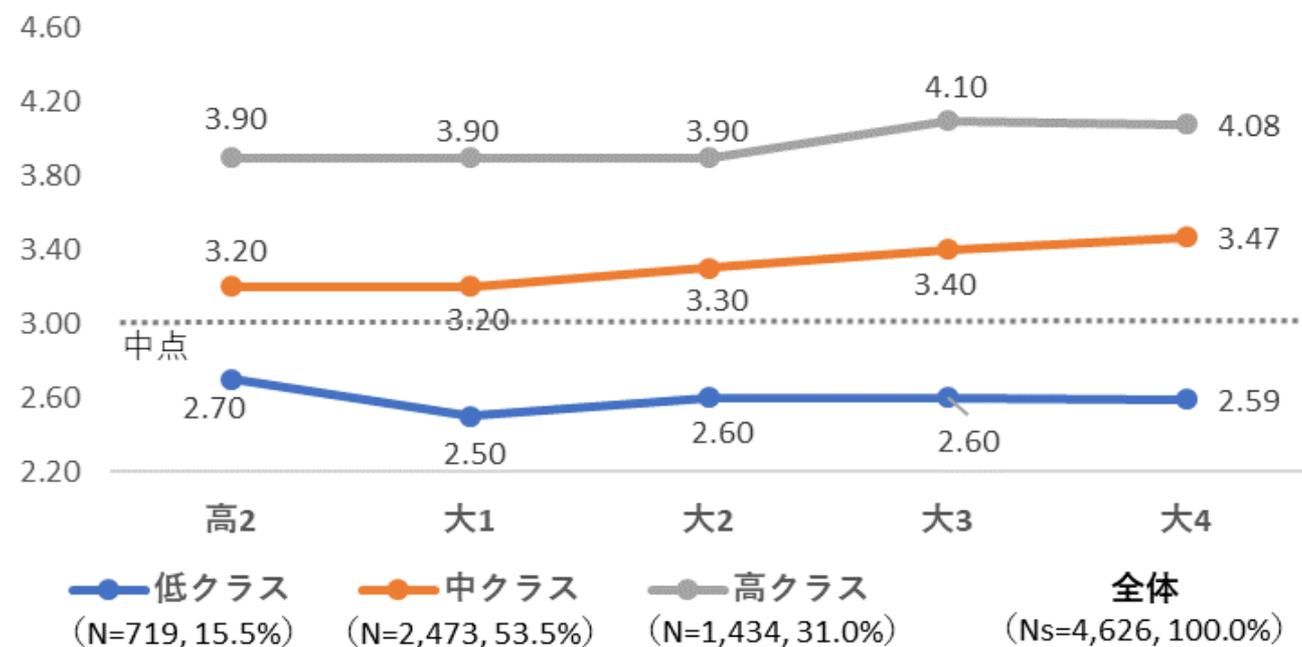
第4章 トランジションの研究結果に基づいた高校の実践事例(京都市立塔南高等学校・神奈川県私立桐蔭学園)



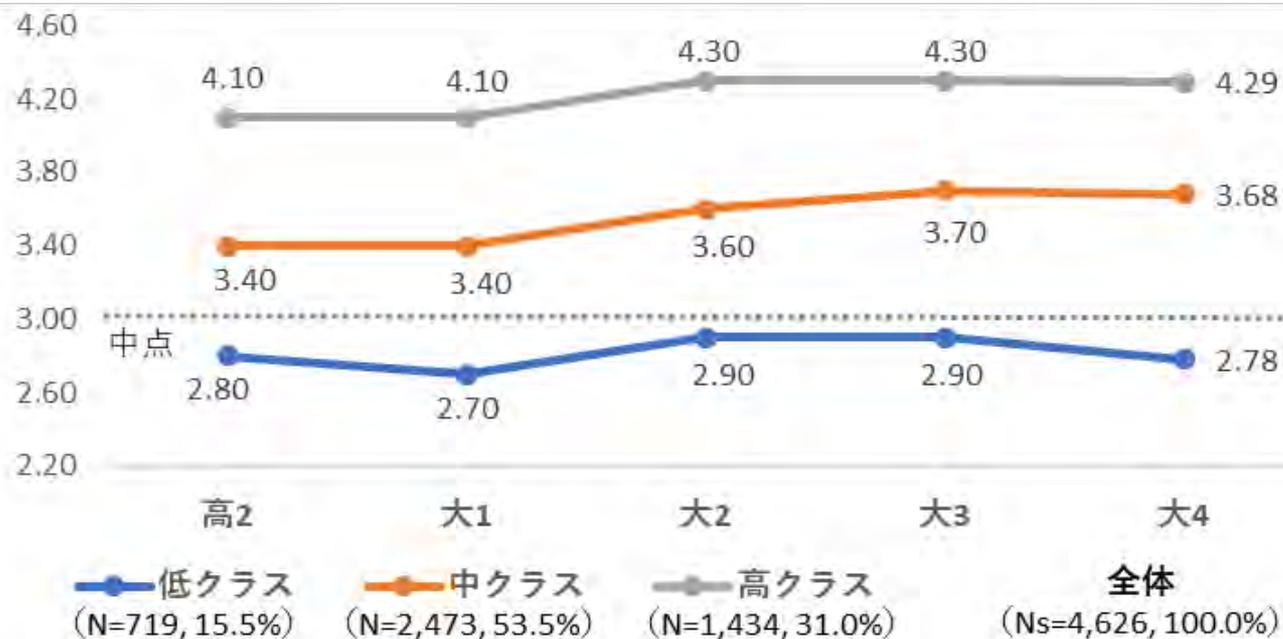
## 他者理解力



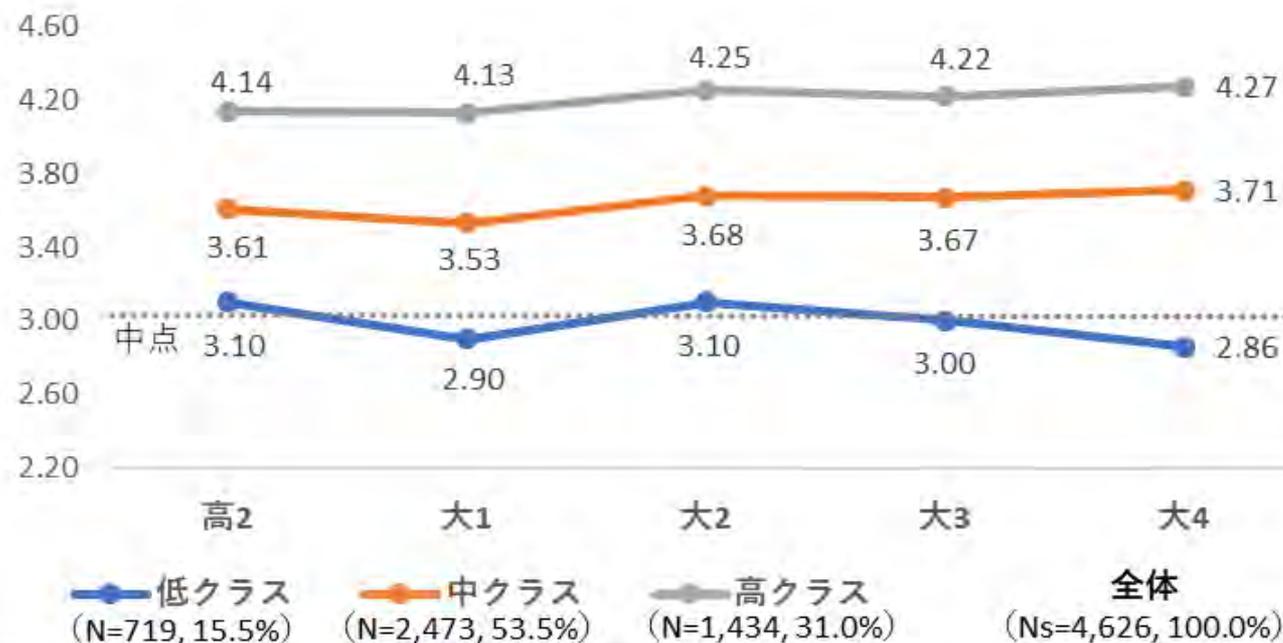
## 計画実行力



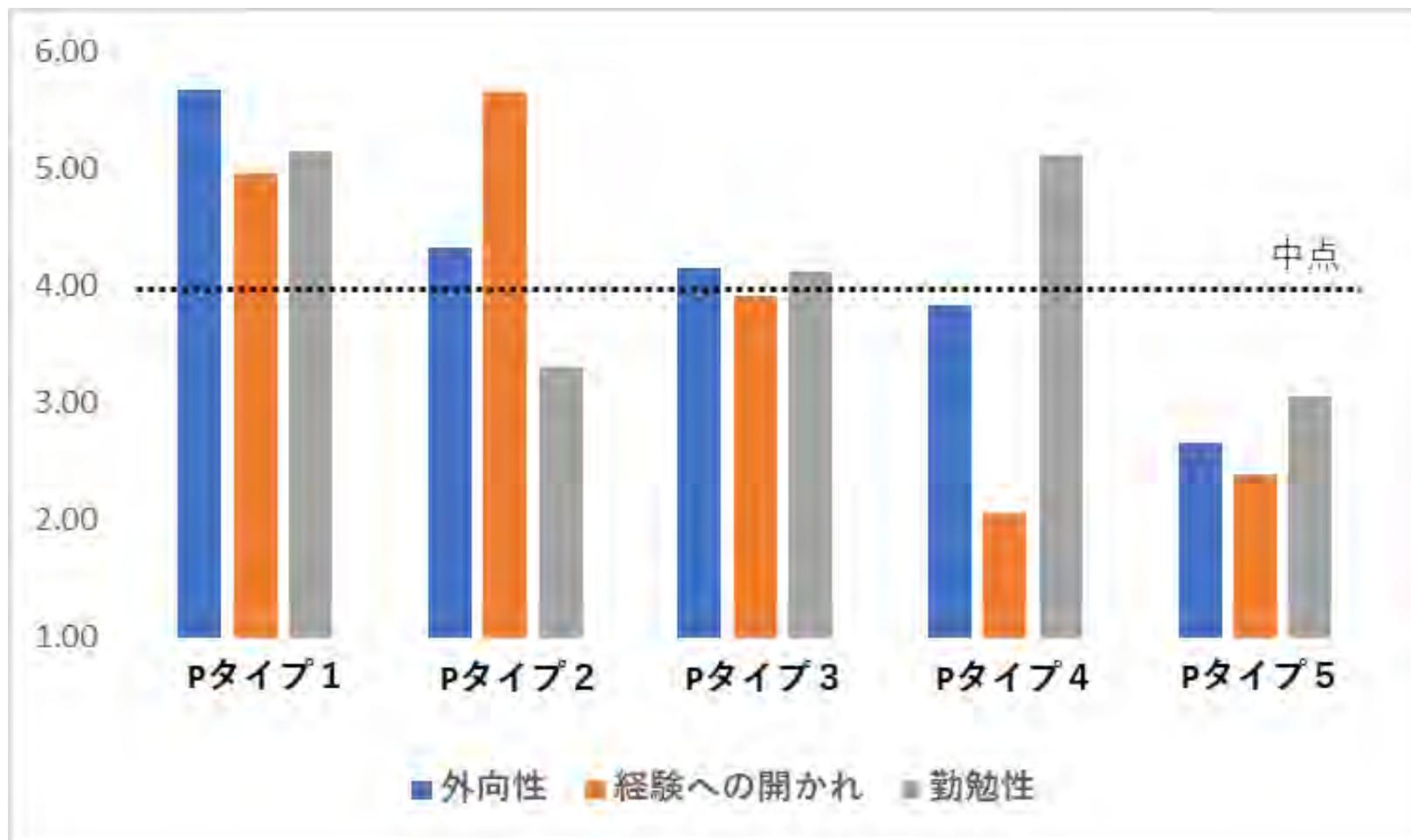
# コミュニケーション・リーダーシップ力

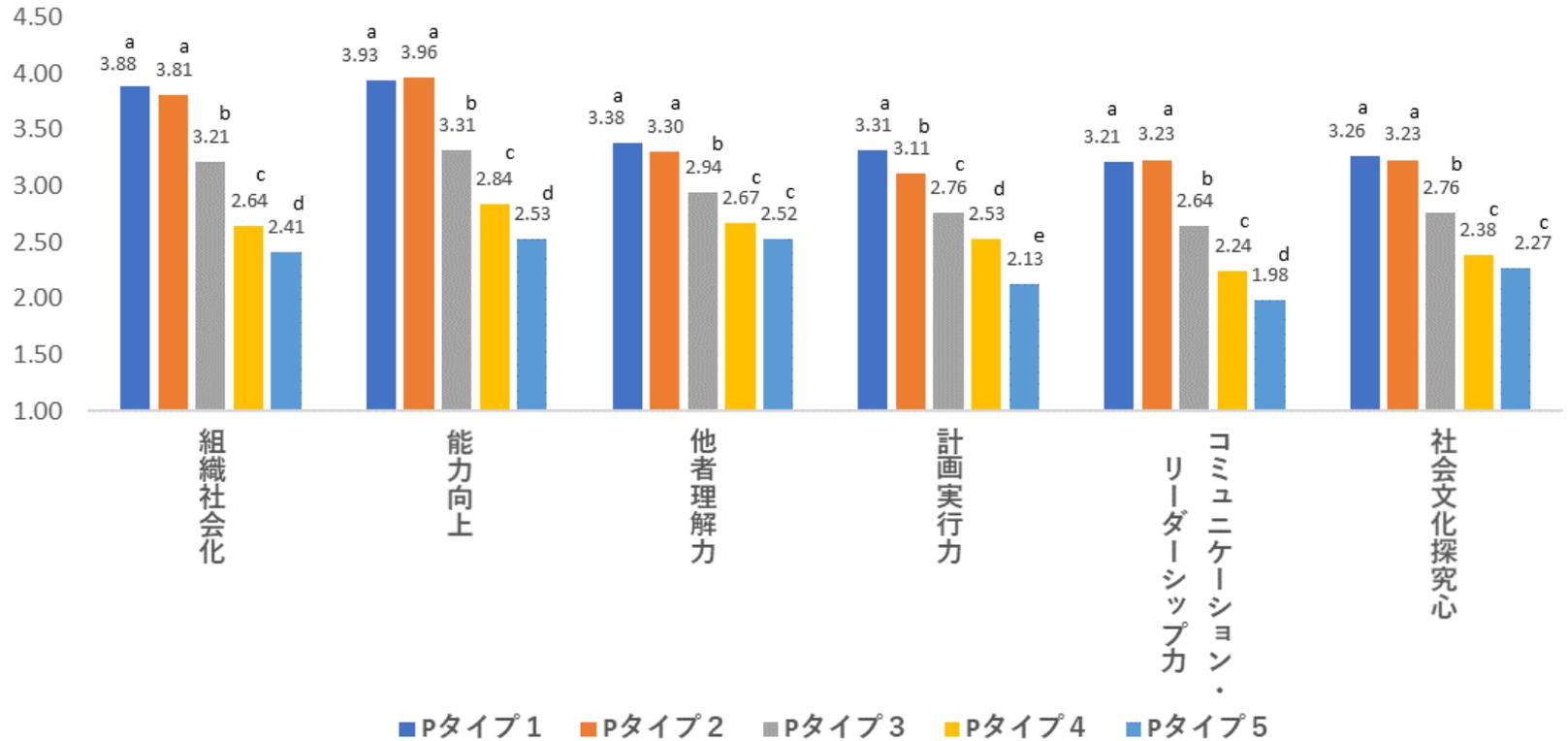


# 社会文化探究心



## 25-29歳の社会人3,000人調査より(未公表)





変数	得点レンジ	全体	Pタイプ1	Pタイプ2	Pタイプ3	Pタイプ4	Pタイプ5	一要因分散分析	効果量 ( $\eta^2$ )
		N=2,640	N=318	N=68	N=2,039	N=87	N=128		
組織社会化	1-5	3.25(0.74)	3.88(0.65)	3.81(0.73)	3.21(0.63)	2.64(1.03)	2.41(0.80)	$F(4,2635)=156.600, p<.001$	.19(大)
能力向上	1-5	3.35(0.65)	3.93(0.54)	3.96(0.72)	3.31(0.53)	2.84(1.03)	2.53(0.75)	$F(4,2635)=185.367, p<.001$	.22(大)
他者理解力	1-4	2.97(0.60)	3.38(0.52)	3.30(0.52)	2.94(0.55)	2.67(0.89)	2.52(0.78)	$F(4,2635)=74.885, p<.001$	.10(中)
計画実行力	1-4	2.80(0.55)	3.31(0.44)	3.11(0.64)	2.76(0.47)	2.53(0.83)	2.13(0.57)	$F(4,2635)=163.205, p<.001$	.20(大)
コミュニケーション・リーダーシップ力	1-4	2.68(0.57)	3.21(0.53)	3.23(0.57)	2.64(0.49)	2.24(0.71)	1.98(0.52)	$F(4,2635)=190.079, p<.001$	.22(大)
社会文化探究心	1-4	2.80(0.56)	3.26(0.52)	3.23(0.49)	2.76(0.49)	2.38(0.79)	2.27(0.56)	$F(4,2635)=130.611, p<.001$	.17(大)

# AL型授業の基本中の基本 実践的ポイント

溝上慎一 (2018). (2018年2月)

『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』(学びと成長の講話シリーズ1) 東信堂

第1章 アクティブラーニング型授業における教師と生徒の関係性

第2章 アクティブラーニング型授業の基本形とさまざまな創意工夫

第3章 よく思い出す技ありの名場面集

第4章 文科省施策「社会に開かれた教育課程」をよくよく理解して

第5章 主体的な学習をそもそも論から理解する



## AL型授業における生徒の身体性

- ✓ 教師の指示が生徒に通る
- ✓ 生徒の発表を傾聴する(傾聴の姿勢)







(桐蔭学園高校の授業より)



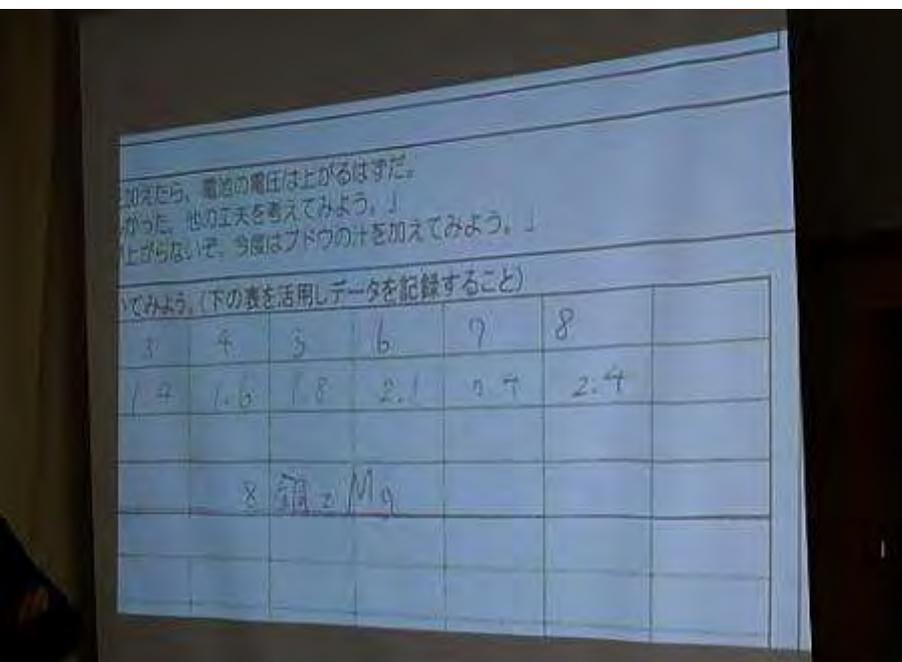
(桐蔭学園小学校の授業より)



(秋田大学教育文化学部附属中学校)

**Further Readings** 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

✓ (AL実践)原田俊子(秋田大学教育文化学部附属中学校)「よりよく生きるために言葉の力を育む評価読みの指導ー協働的な学習を通して、多角的に文章・作品の主題に迫る読解力を育てる授業づくりー」



Further Readings 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

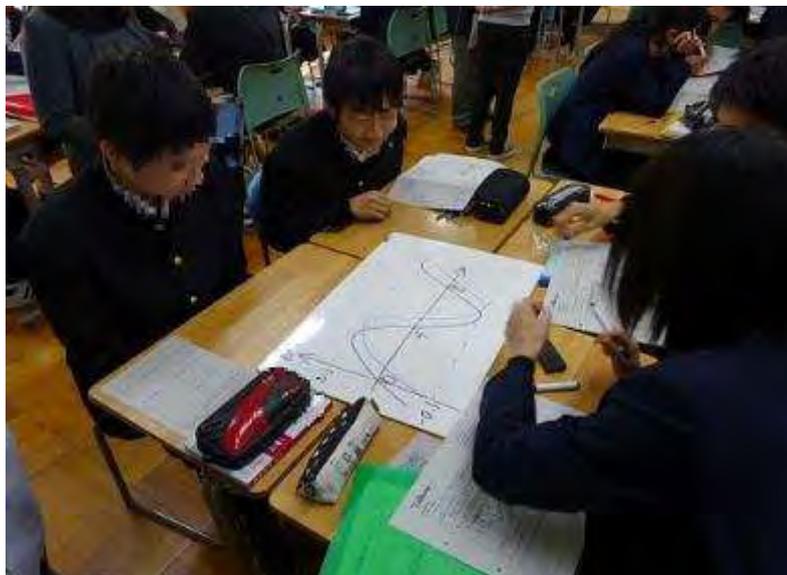
✓ (AL実践) 島田勝美(秋田大学教育文化学部附属中学校)「理科の探究的活動による批判的思考力の育成」



([愛知県私立]名城大学附属高校)

**Further Readings** 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

✓ (AL実践) 宮田隆徳(名城大学附属高等学校)「ScrapboxとYouTubeを利用した反転授業」



([大阪府立]岸和田高等学校)

**Further Readings** 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

- ✓ (AL実践)五味智子(大阪府立岸和田高等学校)「他者との議論を通じた学びの深化」
- ✓ (AL実践)重野金美(大阪府立岸和田高等学校)「“対話”で深め“再話”で高める4技能統合型授業」





- 傾聴の姿勢
- 前に出てきて発表。声も大きい

（[[山形県立] 庄内総合高校）

ワークシートベースで  
個－協働－個の学習サイクルをつくる



## 個の学習

- ・ふり返り
- ・まとめ
- ・次回の冒頭で  
小テスト

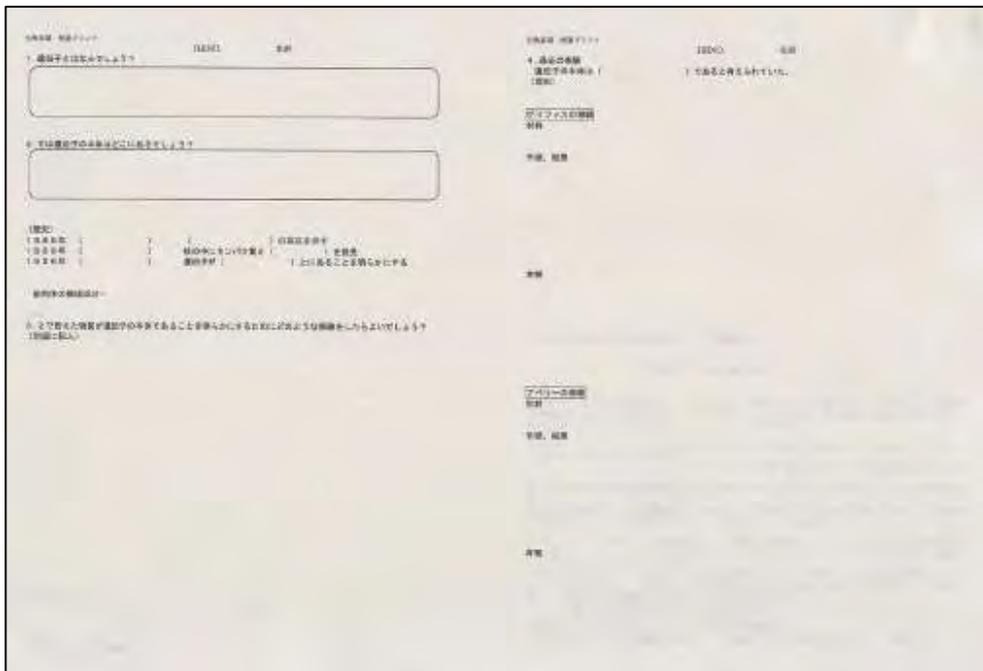


個の学習



協働の学習

(桐蔭学園中学高校の授業より)



ワークシート  
(静岡高校2年生「生物基礎」)



個の学習



協働の学習



＜中和反応とイオンの数の変化＞ ～湯川の中和対策事業を通して学ぶ～

◎本時の目標

- ① 群馬県を流れる河川「湯川」における水質管理法を通して、化学による環境対策を学ぶ。
- ② 中和反応と溶液中のイオンの関係を図示できるようになる（次時のグラフ化へつなげる）。

◆自分の考え

ペアワーク時のメモ

中和剤に「水酸化ナトリウム」を用いて水質を改善できるか？

化学  
反応式

中和反応と溶液中のイオンの関係

3(OH) + 2H<sub>2</sub>O → 2[ ] + S

（長崎東中学校「理科」）

# 興味があればお読みください

溝上慎一 (2018).『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』(学びと成長の講話シリーズ1) 東信堂

## 第2章 アクティブラーニング型授業の基本形とさまざまな創意工夫

- ポイント1 アクティブラーニング型授業における教師と生徒の関係性をつくる  
アクティブラーニング型授業に即した生徒の身体化を促す
- ポイント2 個－協働－個／内化－外化－内化の学習サイクルをつくる
- ポイント3 タイマーを表示し、時間を意識させる

## 第3章 よく思い出す技ありの名場面集

1. ICTを利用して生徒のワークをその時間内でフィードバックする
5. 議論や発表だけが「表現」ではない

## 第5章 主体的な学習をそもそも論から理解する



溝上慎一 (2018).『学習とパーソナリティー「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るかー』(学びと成長の講話シリーズ2) 東信堂

## 第2章 現場の疑問から学習論を発展させる

- 1 基礎知識を「習得」してからでないアクティブラーニングはできない？
- 2 アクティブラーニングは「学力」下位層に向いている？
- 7 授業進捗の問題をどのように解決するか
- 9 面倒を見れば見るほど生徒学生は受け身になっていく？

## 第4章 よく思い出す技ありのアクティブラーニング型授業

- 5 作問を通しての生徒同士の学び合い(上級編)
- 6 体育実技でも言語活動としてのアクティブラーニング



# ご清聴有り難うございました

今日の話に出てくる用語や概念、ALの事例などをもっと知りたい方はお読みください

ウェブサイト「溝上慎一の教育論」

<http://smizok.net/education/>



学校法人桐蔭学園 理事長  
トランジションセンター所長・桐蔭横浜大学特任教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2000年講師、2003年京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。2014年教授を経て、2018年9月に桐蔭学園へ異動。2019年4月より現職。京都大学博士(教育学)。



日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、『青年心理学研究』編集委員、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、学校法人河合塾教育研究開発本部研究顧問、中央教育審議会専門委員、大学の外部評価・AP委員、高校のSGH/SSH指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、心理学(現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化)と教育実践研究(学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学－他者の森をかけ抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学－適応から自己形成の時代へー』(2010有斐閣選書、単著)、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(2014東信堂、単著)、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』(2018東信堂、単著)、『高大接続の本質－「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題－』(2018学事出版、編著)など多数。

# チューリップMLのご案内

- ◆溝上研究室が運用するMLです。学校教育改革、学校から仕事・社会へのトランジション、教員や社会人の人材開発等に関する講演会、シンポジウム、研修会等の案内が配信されます。
- ◆参加者からの発信もできます。積極的にご利用ください。
- ◆小学校・中学校・高校・大学・仕事/社会 の関係者に配信されます。

## 桐蔭学園(中学高校)の「授業見学」のご案内



◆桐蔭学園はAL型授業向上を目指して、外部からの授業見学をいつでも受け付けています(ただし、定期考査や学園祭等の期間は除きます)。見学したい方は下記にご連絡下さい。

担当: 佐藤透 ([satohru@toin.ac.jp](mailto:satohru@toin.ac.jp))